

2024年度

札幌日本大学中学校
入学選抜試験
【B日程(1月9日)】

総合学力(国語・社会)

試験時間 60分

1. 指示があるまで、問題冊子きつしを開いてはいけません。
2. 答えは、解答用紙に記入してください。問題は、**1**～**2**まであります。
3. 試験監督かんとくの先生の指示に従って、試験を開始してください。
4. 試験の途中で、トイレに行きたくなったり、気分が悪くなったりした場合は、手をあげて試験監督の先生の指示を受けてください。
5. 試験開始の指示があってから、解答用紙に「受験番号」「氏名」を記入してください。
6. 字数制限のある問いの場合、句読点や「**」**等の符号ふごうも一字として数えてください。
7. 解答用紙には、解答以外を記入しないでください。
8. 試験が早く終わっても、周囲を見回したり、横を向いたりしてはいけません。試験監督の先生から注意を受けることがあります。
9. 机の上には、筆記用具以外は置いてはいけません。風邪かぜなどにより、ティッシュペーパーあらかしを使用したい場合は、予め試験監督の先生に申し出てください。

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

世界は、^{ひんこん}貧困、^{かんきょうはかい}人種差別、環境破壊など、さまざまな問題に直面しています。こうした地球規模^{きぼ}の問題を解決するために、「誰一人取り残さない」という共通理念のもと、国際連合（国連）が加盟193カ国が達成を目指す2030年までの国際目標として定めたのがSDGs^{エスディーゼーズ}です。SDGsは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」という英語の頭文字をとった略称^{りやくしょう}で、下にあるように17の目標が決められています。

たとえば、目標1は「貧困をなくそう」、目標2は「^{きが}飢餓をゼロに」、目標4は「質の高い教育をみんなに」と、さまざまな目標が設定されています。「貧困をなくそう」が目標になったのは、「なくすべき貧困がある」ということです。「飢餓をゼロに」が目標なのは、「飢餓で苦しむ人がいる」からです。17の目標は、今の地球には多くの問題があることを示しているのです。



(秋山宏次郎監修・バウンド著『子どもSDGs なぜSDGsが必要なかがわかる本』カンゼン)

(注) *5 ジェンダー平等＝性別による不平等をなくすこと。

*17 パートナースHIP＝みんなで力を合わせること。

問1 下線部に「17の目標は、今の地球には多くの問題があることを示しているのです」とありますが、17の目標の中であなたはどの問題を一番に解決すべきだと考えますか。そう考える理由もあわせて150字以内で書きなさい。

問2 SDGsの目標を達成するためにあなたができることは何がありますか。17の目標の中から1つ選んで、その目標達成に向けて今の自分でもできることや、できるようになるためにこれから勉強していきたいことを300字以内で書きなさい。

2 次の□内の文章は、けいこさんたちが国語の授業で読んだ本、『奮闘するたすく』の一部です。この文章をもとに、けいこさんとひろしさんは、放課後、先生と話しています。

【文章の場面】

小学5年生の^{たすく}佑は、担任の^{はやた}早田先生のすすめでデイサービス（通所かい護）についてレポートを書くことになり、夏休みに、祖父が利用している「ケアハウスこもれび」へ通うことにしました。□内の文章は、佑が、「ケアハウスこもれび」を訪れた^{おとす}早田先生といっしょに、インドネシア人研修生のリニさんから話を聞いているところです。

「※この協定で日本への受け入れが定められている職業は、^{しよくぎよう}看護師と^{かんごし}介護^{かいご}福祉士^{ふくしし}のふたつですが、リニさんが、介護福祉士になろうと思ったのはどうしてですか？」

早田先生が次の^{しつもん}質問をしたので、佑も急いで書きなぐる。

“どうして、かんごしではなく、介ごふくしし？”

質問に、リニさんは少し考えるように首を^{かし}傾げたが、やがて小さくうなずいた。考えをまとめたようだった。

「私は、お年寄りの^{わたし}お世話^{としよ}をしたい、思ったからです」

「お年寄りのお世話をしたい、と思ったんですか？」

佑は、思わず^{かんべき}完璧なオウム返しできき返してしまった。お年寄りのお世話は、とても大変だということは、ちょっと見ただけでもわかっていたからだ。こもれびに来ているお年寄りは、体が不自由な人が多い。その人たちのお^ふ風呂^ろやトイレを手^{いそが}伝うのは、力がいるし、忙しそうだ。

ほかにも、^{から}のどに絡んだたんを、ノズルのついた^{きゆういんき}吸引器で取っているのも見たことがある。「ズコズコズコッ」とすごい音がしていて、初めて見たときには、ぎょっとした。

見たことはないけれど、もちろん、おむつを^か替えることもあると思う。それは、正直に言うと、見たくなかった。足をけがして動けなくなった^{そふ}祖父が、いつきおむつをつけたことがある。母が手^い伝っていたけれど、佑は手を出せなかった。自分の祖父でさえだ。^{いや}嫌な顔ひとつせず、おむつを替える母は、えらいな、と思った。

それなのに、家族以外のお年寄りのお世話をしたいなんて。いや、^{じっさい}実際にしているなんて。しかも、遠い外国まで来て。

けれどもリニさんは、ちっとも嫌^{いや}そうではなかった。むしろ、^{ほこ}誇らしそうだ。「インドネシアでは、お年寄りはとても^{そんけい}尊敬されているのです。だから、家族全員が代わりばんこに世話をします。みんながお世話をしたい。それがあたり前。お年寄りは、^{わたし}私たちよりたくさん生きている分だけ、かしこくて物知りです。日本のお年寄りも、たいへんかしこいです」

※この協定…日本とインドネシアとの^ぎ経済連携協定

(まはら三桃『奮闘するたすく』講談社)

けいこ：以前、総合的な学習の時間の授業で、高れい者し設に行ったとき、足の具合の悪いおじいちゃんの手を引いて、いっしょに食堂に行ったら喜んでくれました。

ひろし：し設で働く人の手を借りて、トイレに行っていた方もいました。

けいこ：わたしのおじいちゃんは去年転んで、しばらく歩けなかったとき、おばあちゃんがトイレやおふろを手伝っていました。

ひろし：この本では、インドネシア人のリニさんが、日本で、かい護福祉士になろうと思い、「ケアハウスこもれび」で研修をしていました。

先生：そうでしたね。主人公の^{たすく}佑は、リニさんから話を聞いて、リニさんに対してどのように思ったと考えますか。

けいこ：佑は、とわたしは考えます。

ひろし：かい護の仕事は人手不足だと母が言っていました。

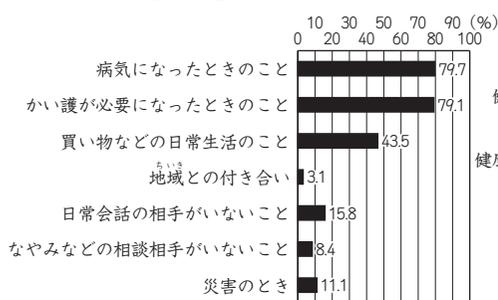
けいこ：人手不足を解消するために、かい護を助けるロボットなどが開発されているというニュースをテレビで見たことがあります。

先生：総合的な学習の時間の授業で学習したように、高れい化が進む日本では、高れい者かい護問題は、大きな問題の一つです。高れい者が安心して生活できるよう、どのような工夫をしていくことが大切だと思いますか。来週の総合的な学習の時間の授業で話し合えるように、資料を集めてきましょう。

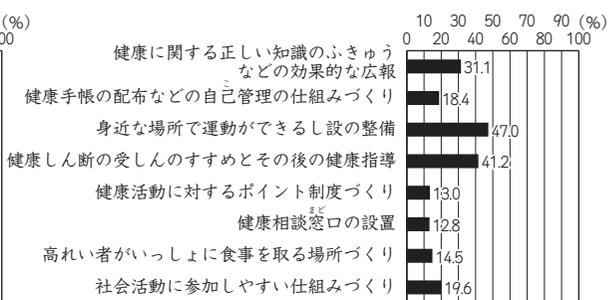
問1 会話が成り立つように、に入る内容を書きなさい。
には、内の文章をもとに、佐がりニさんから話を聞いて、リニさんに対してどのように思ったかについて考え、50字以上70字以内で書きなさい。

問2 資料1～資料3は、けいこさんが集めたものです。これらの資料をもとに、高れい者が安心して生活できるよう、どのような工夫をしていくことが大切だと思いますか。資料1～資料3の中から二つの資料を選び、それらに関連づけて、あなたが考える具体的な工夫を入れ、80字以上100字以内で書きなさい。

資料1 高れい期の一人暮らしで不安に思うこと(複数回答)



資料2 高れい期に必要なと考える健康づくり、かい護予防の内容(複数回答)



※厚生労働省による高れい社会に対する意識調査 (40さい以上の男女3000人が対象)

※高れい期…高れいになったとき

(資料1、資料2は、「平成27年度少子高れい社会等調査検討事業報告書」より作成)

資料3 かい護を助けるロボットの長所と短所

長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> ・かい護する人の負担を減らせる ・かい護を適切に、効率よく行える ・かい護される人の精神的な負担を減らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・値段が高い ・操作を覚えるのが難しい ・人の手のぬくもりが感じられない

(かい護を助けるロボットを使用している、かい護し設の方の意見などをまとめたもの)

